

### 1. 開催日時

令和 3 年 10 月に開催予定であったが新型コロナウイルス感染拡大予防の為、審議は文章による意見交換で行なった。

### 2. 参加者

委員長：吉岡忍

委員：竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、砂川浩慶、宮崎美紀子、笹田佳宏

株式会社サテライト・サービス：加藤浩輔、岡崎洋三、福本洋、窪田正利

株式会社フジテレビジョン：永竹里早、門澤清太

JCOM 株式会社：木村秀行、森井健策

### 3. 議題

- 1) 『徹底捜査！宇宙の脅威～ep. 1 巨大隕石の巻』 ディスカバリーチャンネルで放送
- 2) 『野性爆弾のヴィンテージ王国～超マニアックショップに潜入！』  
フジテレビ ONE スポーツ・バラエティで放送

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

#### 1) 『徹底捜査！宇宙の脅威～ep. 1 巨大隕石の巻』

- ・ 宇宙の話題はわれわれのイメージネーションを刺激する。それを、CG などでいっきに図解し、解説するのではなく、1970、80 年代風の車、ボイスレコーダー、郊外レストラン、玉突き台、公衆電話、町並み等、旧式な舞台で展開するところに、オヤツと思わせる意外性がある。
- ・ 番組内容は、定評があるディスカバリーチャンネルの宇宙もので知的好奇心を満たしてくれた。隕石の落下がいかに危険かは知っていたが、舞い上がった硫黄が恐竜の絶滅に影響したことなど初めて知ることも多かったし、記憶に新しいロシアの隕石落下も盛り込まれ、落下のエネルギーがどれだけ大きいかもよくわかった。
- ・ 殺人岩の軌道を変化球と直球にたとえた件が、ミステリー仕立ての同番組がニュース番組や科学や物理によって、解明する他の番組とは異なる見事な差別化を見せていると思う。ここ

が「徹底捜査！……」の興味深く知的好奇心に訴える秀逸な部分ではないか。

- ・ 小惑星の衝突によって、人類絶滅の危機という重大な問題にも関わらず、多くの人が知らない問題を取り上げていて良かった。また、さまざまな研究が行われていることも理解できた。
- ・ ロマンチックな「流れ星」イコール「小惑星」それが隕石と成って地上に落ちれば「殺人岩」大変、怖い話である。私立探偵のアメコミ的な映像と専門家達の映像との対比が興味深く、全体を仕上げていていると感じた。
- ・ 50年代のアメリカンコミックスへのオマージュや、60年代のアメリカTV私立探偵ドラマのスタイルを踏襲しながら、そのつなぎの妙によって飽きさせず、MCの役割を果たさせて、自然に興味深く科学の最先端を見せる手法は見事。
- ・ コンパクトに、スピーディーに、しかし、番組まわし役の探偵は70、80年代のクラシック・スタイルで、という奇妙なテスト。もしかしたら一から十までデジタル、何でも未来社会風CGで処理、という近年の映像表現への皮肉も込められているのかもしれない。宇宙のフシギを番組化する際の、ひとつの切り口として注目した。
- ・ CGを多用するのではなく、衝撃波は石をなげ表現する、太陽系は地面を使って説明するなど、かえって現実味があるように思えた。
- ・ 2カ国語放送はとても良かった。これだけ濃い内容を字幕で見るのは辛い。宇宙番組は子供たちに見てもらいたい。そのためにも日本語で放送することが必要だ。吹替の声質も実に良かった。臨場感にあふれ、科白のインパクトと説得力も十分にあったように感じた。  
(同様の意見が複数あり)
- ・ あまりに素晴らしい番組なので、驚いた。  
地上波やBSでは、今はこういう番組をやらないから、いまひとつ元気がないのだと思う。60年代は、「タイムトンネル」を始め、この手の知的で学術的で、かつ同時に一流のエンターテイメントにもなっている番組が、豊富に放送されていた。その原点を見せられているようで、感激した。

## ※委員からの質問・意見に対し株式会社ディスカバリー・ジャパンから回答

### 【意見】

宇宙物理学者などの専門家が、ときに大きなクレーターの現場から、また研究室などで解説する内容はわかりやすい。そこで挿入されるCGや映像もストレートだがよくわかる。短く、歯切れのよい説明は、いかにもアメリカ的。日本の科学番組ではなかなかこうは割り切れず、もっと回りくどく、だらだらしたものになるだろう。

### 【回答】

ありがとうございます。テンポよくわかりやすく説明するのはディスカバリーの得意分野の

ひとつだと思えます。

**【意見】**

ep1 を見ただけでは分からない迫り来る危機から人類を救う方法と具体策を示してもらえれば、さらに同番組の質は向上するだろう。また ep2 以降に ep1 では触れられていない人類救済計画の決定打が描かれているのではと、期待してしまうほど同番組は興味深い内容だったと思う。

**【回答】**

ep.2 以降で取り上げるテーマはガンマ線バースト、人工衛星の衝突事故、地球外生命体との接触、宇宙を移動するブラックホール、宇宙の終わりです。そのすべてに人類を救う決定的な具体策が示されるわけではありませんが、問題解決のための科学者の様々な研究・取り組みを紹介しています。例えば地球軌道でネットを発射したりロボットを使ったりして宇宙ゴミを除去するアイデアなど。また脅威に対して深刻さと楽観的な見方の両方を示して視聴者に判断をゆだねている部分もあります。

**【意見】**

探偵のドラマパートが効果的かどうかは疑問。科学、教養番組に俳優やタレントの小芝居を挟む手法はNHKスペシャルがずっと昔からやっていることで、新しさは感じなかった。マンガチックな探偵のドラマパートと、おなじみのディスカバリースタイル（科学者がやや高い声でよどみなく説明する）の相性が良いとも思えなかった。

**【回答】**

ご意見ありがとうございます。ディスカバリーとしては新しい試みでしたが、確かに日本の番組では既にやっている手法というご指摘はごもっともです。弊社としては従来の王道のドキュメンタリーに加えて、このような実験的で良質な番組も今後放送していけたらと考えています。

**【意見】**

アメリカ向けの番組なのでやむを得ないが、例えば米国内の場所と場所の距離などの場合があり、日本の視聴者にはわかりにくい点があった。割り切るのも一方策だが、フォローがあっても良いと感じた。

**【回答】**

ご指摘ありがとうございます。分かりにくい部分は翻訳で日本に置き換えるなどの措置も時には必要ですね。ただしストーリーの文脈的に、外国にいる設定の人物が日本の地名に言及するのは違和感があり、今回の番組では難しいかもしれません。ナレーターなど第三者が状況を説明している場合なら可能だと思います。

**【意見】**

ドキュメンタリーと探偵ドラマのコラボは新鮮だった。ドキュメンタリー部分だけよりも、謎解き、危機回避のための問題を一つ一つ解決する方法の紹介の間にドラマが入っていることで、説明調にならず、そうか、そうかという感じで視聴できた。

## 【回答】

ありがとうございます。視聴者を飽きさせず最後まで観てもらえるような番組になっていると思います。

## 【委員からの意見、感想や番組全般について回答】

「徹底捜査！宇宙の脅威：巨大隕石の巻」をご視聴・審査していただき誠にありがとうございます。

ディスカバリーでは硬派な宇宙番組は数多く放送してきましたが、今回のようなエンターテインメント性の高い作品は初めてであり、新しい試みとして放送する価値があると考えました。ご覧いただきました通り、これはアメコミ風の絵やレトロなフィルムノワールの雰囲気、そして探偵ドラマの要素を採り入れた番組です。科学ドキュメンタリーとエンタメが違和感なく融合しており、これまであまりドキュメンタリーを観てこなかった視聴者や子どもにも親しみやすい作品に仕上がっていると思います。

委員の皆様からは番組内容や構成・演出・吹替などについて概ね好意的なご感想を頂き、大変うれしく思います。また番組制作者の意図や日本の番組との比較、CGだけでなくアナログな説明を採り入れている点、あまり知られていない科学的事実が盛り込まれている点など、非常に多角的に番組を分析していただいたことに感謝いたします。

多くの視聴者がこの番組をきっかけに宇宙や地球環境に興味を持ってくれれば幸いです。

## 2) 『野性爆弾のヴィンテージ王国～超マニアックショップに潜入！』

- ・ マニアックな車などを扱うショップに繰り出す企画そのものは、画面から凄さが伝わってきて面白さを感じた。特にショップの従業員やオーナーの熱意と深さが心地良いモノであった。
- ・ アメ車の紹介では、当時の車のクラクションの位置など車の特徴を詳細に紹介しており、また、イギリスのヴィンテージでは船舶用の紙で出来たカバンの紹介など、歴史的な豆知識が得られた。ヴィンテージものにはあまり興味が無かったが、そうした意味では誰もが楽しめる番組ではないか。
- ・ ヴィンテージとされている 1980 年代のバブルに沸いた時代を批評しながら、当時の自分たちを振り返るといふ「距離感」があったほうが面白くなったのではないか。
- ・ 前半のクルマとバイクの談義では、1960 年代までのカッコよかったアメ車、その後の衰退するアメリカを象徴するアメリカ自動車産業についての蘊蓄（うんちく）は語れなかっただろうか。カッコいい、すげえー、やべえなあ、だけじゃなく、もう少し言葉がほしい。

- ・ この類の番組は自分自身のストライクゾーンから少しでも外れてしまうと、目を背けてみたくなるもの。各アイテムに関して、もっとマニアックで非日常を想起させるようなデータやエピソードを並べてみないことには好奇心はそそられません。素材的には申し分ないと思いますが、全体的に掘り下げ方が安易で、番組制作上の取材不足を感じた。出演者のアイテムに関する知識と理解度も、いま一つで物足りない。
- ・ このような趣味深掘り番組はBS、CSの定番だが、出演者のキャラクターに番組の個性が出るもの。野性爆弾、特にくっきー！のこわもてのビジュアル、下ネタありのコメント、そして多趣味、多芸、博識ぶりが他の同種の番組にはない面白さを加えている。

### ※委員からの質問・意見に対し株式会社フジテレビジョンから回答

#### 【質問】

この番組の視聴者は、どういう層なのか。いまどきの若者たちは、昔のことはほとんど知らないうえに、興味もないのでは。

#### 【回答】

この番組に関しましては、昭和40年代～50年代に生まれた現在30代後半から50代の男性にターゲットをフォーカスしております。ちょうど出演者である野性爆弾が45歳で彼らが少年期、青年期に欲しかったもの、憧れていたものに触れていく（または実際に購入する）ということをテーマとしております。

#### 【意見】

野性爆弾の知識や体験やセンスは並以上だが、出演者の知識だけで、これをカバーするのはむずかしい。ここはやはり制作者が事前調査をし、（事前にレクチャーをしたうえで）現場に臨んだほうが、番組としての広がりや奥行きが出たのでは。

#### 【回答】

ご指摘いただいております情報が出演者頼みで、視聴者が「学び」を得る情報が不足しておりましたことに関しまして、強く反省しております。今後は出演者とともに成長していく番組にしていきたいと考えております。

#### 【意見】

野性爆弾の使い方は、どうなのかなと思う所もある。くっきー！は、天衣無縫であのままでよいが、ロッキーの存在価値がない。

#### 【回答】

ロッキーさんの存在価値がないというご指摘に関しては、当初にはロッキーさんだけでヴィンテージワインを飲みながら〇〇年代の思い出を語るというコーナーを担っていただいていたのですが、コロナ禍で「お酒を飲みながら」という企画が成立しなくなったままになっておりま

す。制作サイドの怠慢であると反省し、次回以降に活かしていきたいと思いをします。

**【意見】**

ヴィンテージMC ガールとの遣り取りがおじさんの上から目線、かつちょっとエッチな感じで不快だった（メインの視聴者として、その層を狙っているのかもしれないが、それは古い。現在のメディアとして失格）。最後の彼女の水着シーンも無意味。女性にも見てもらって視聴に耐えうる番組としてほしい。（同様の意見が複数あり）

**【回答】**

MC ガールの演出に関しては耳の痛いご意見です。今後の内容を十分検討いたします。

**【委員からの意見、感想や番組全般について回答】**

様々なご意見、ご指摘を頂戴しつつ、ヴィンテージと呼ばれるプロダクトが内在する美しさや楽しさをご評価いただき、誠に有難うございました。昨今はあらゆることがデジタル化され、やれクラウドだ、仮想だ、メタバースだと手触り感のないものを信奉する風潮がありますが、皆様にご評価いただきました点、ご指導いただきました点を今後の番組作りに活かしていきたいと存じます。有難うございました。

4. 次回予定

令和4年2月中の開催を予定。議題対象番組は調整中。

以上